

群馬県 グループホーム「なかよし」 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時からの理念はあるが、更に地域密着型の特別なものは無い。</p>	○	職員で話し合い、新たな理念づくりに取り組んでいる。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	忙しい時ほど、業務優先にならず、理念に戻っていくよう話し合っている。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	家族との交流時は、常に頭に置き接しているが、地域の人々には浸透していない。	○	地域の人々への働きかけを少しずつでもしていきたい。(町内会の参加等)
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	挨拶を心掛けている。	○	具体的にお茶の時間等を知らせて声掛けをしていきたい。野菜などを頂く。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	重度の方が多く、なかなか地域の行事等に参加出来ないが近所のボランティアの方に(紙芝い、カラオケ、アコーディオン等)きて頂きます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケアで学んだことを、地域の住民に役立てたらと、推進会議でも話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が前向きに取り組むように、話し合っている。	○	評価項目の内容を全員がよく読み、各人のレベルアップにつなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告をし、率直な意見を出していただけるよう働きかけている。	○	検討事項があった場合は、次回にも取り上げていくようにする。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からの回覧物には必ず目を通し、講演・勉強会等への参加に努めている。	○	資料を活用して、職員の勉強に役立てていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会には参加している。	○	必要な人への活用をしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料には必ず目を通してしている。	○	職員の健康管理が大切と考えている。常に心の余裕を持って、高齢者への支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の方とは、なるべく、話し易い雰囲気に関心掛け、会話の時間を多く持つようにしている。	○ 聞きづらい事等もないか配慮していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉で表現できない利用者には、行動や態度から思いに気づくよう努力している。	○ 周りに気を使う利用者には、自由に話ができる空間を設ける。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の状況などを話し合う。また電話で様子を知らせることもある。	○ 写真もお渡しし、暮らしぶりを伝えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話せる雰囲気づくり・投書箱もある。	○ 外部者へも気軽に話せるよう、市町村の相談窓口もあることを説明していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけ、ミーティングより意見や要望を聞くようにしている。	○ 職員の意見を反映させ、質の向上につなげるため、施設に関する情報は皆で共有していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	休み希望を最大限に取り入れた勤務表であり、急に都合がつかなくなった時などは、お互い助け合うことが出来ている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動はほとんどなく、顔なじみのため良い関係がたもれている。	○ 新職員の紹介は家族にもしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人が意欲を持てるよう配慮し、研修会・講演会の活用に努めている。	○ 職員各々、目標をあげてもらい、交代で研修を受けていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交換研修には、参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に話を聞いてもらえる雰囲気を作っている。 職員の親睦会を設けている。	○ 職員からの提案なども、いつでも受け入れるようにしている。。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ケアプランや行事も担当制にしてあり、各自の能力が生かせるようにしている。	○ 職員の資格取得に力を入れ、職場内で活かせるようにする。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に必ず本人に会って、心身の状態や本人の思い、不安などを理解するよう努力する。	○ 話をよく聴くこと。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方とは、充分話を聞き、記録をとり、職員に伝えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず環境が変わってしまうことに対して暖かい精神的援助に心掛けている。	○	職員全員に、情報の共有を働きかけること。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一つ一つの対応に対して、無理強いする事無く、ご本人の思いをよく理解するよう心がけている。	○	不安なことはないか、職員で話し合っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬することを忘れず、学ぶ姿勢で言葉遣いにも充分注意している。	○	ケア＝工夫。職員が常に謙虚な気持ちで対応していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	最も理解している家族の言葉に、耳を傾けるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常にご本人が穏やかに過せることを念頭に置き、家族の協力を得るようにしている。	○	家族の都合できる時間を伺い、何でも話し合える場を多く設けていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いに寄り添うように心掛け、家族との関係も蜜に出来るよう、間をとりもっている。	○	外出・外泊で家族と一緒に過せることを目標に頑張っていたでいる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	時に、いさかいとなる事あり。お互い尊重できるよう、個別に話を聞いたり、わけ隔てない対応に心掛けている。	○	認知症の方への説得はしないよう、言葉遣いにも気をつける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その後の様子や、家族の心配事など電話で相談にのる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で声をかけ、言葉や表情などから真意を推し測り、それとなく確認するようにする。また家族から情報を得る。	○	個人の日誌などにより日々の生活の向上に努力する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ること探しをしながら、本人らしく暮らしていただけるよう心掛けている。	○	先入観にとらわれず、謙虚に利用者の言葉に耳を傾けていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	プライバシーを守って、今までの生活情報を得、より深くその人を理解できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題となることを職員全員で話し、利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き、介護計画の作成に生かしている。	○	各々の利用者に対して、全員の職員が同じ対応が出来るよう介護計画の書き方を検討したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合は、見直し作成を行っている。家族との話し合いを行うこともあり。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに生かせる事を、誰にも伝えやすい言葉で記録するよう心掛けている。	○	ケアプランと観察記録が連動して見られるような書式を検討中。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や医療処置を受けながらの生活の継続、送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる踊り、紙芝い、カラオケ、アコーディオン、手品等が行われている。	○	利用者のレベルに応じた、資源活用を見つけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養のケアマネ・病院の相談員の方々と連絡を取り合っ、ご本人が最も望む環境提供に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援センターからの講演・研修案内には積極的に参加している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前のかかりつけ医での医療が受けられるよう本人と家族の希望に応じている。	○	かかりつけ医にいつでも連絡が取れ、相談できること。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医の先生をお願いしており、家族の意向、日常の観察記録をもれなく伝えるよう努力している。	○	先生に充分利用者のことが伝わるよう、受診表利用から更に書式の検討もして、先生と密に情報交換していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	市内の厚生病院に入院することが多いが、なるべく詳しく情報を伝え、早期退院できるよう、職員がまめに面会に行っている。	○	早期退院によりレベル低下を防いでいきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	健康状態に関しては、家族になるべくまめに連絡するよう心掛けている。終末に対する指針は、家族、医師を交えて話し合っている。	○	ターミナルケアの勉強会を進めていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの確認書のようなものはまだ無いが、検討中。ご本人の苦痛無い生活を基本に、施設で出来ることに全力を注ぎ、話し合いに努めている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	支援状況の情報交換を書面や口頭で充分行うことに心掛け、ご本人の暮らしの継続が出来るようにしている。	○	本人への思いやり、理解を基本に話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を守る為、言葉遣いには特に気を付けている。	○ プライバシーを守る対応の徹底を職員全員で行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声かけを多くし、傾聴に努め、指示したり説得することの無いよう、ご本人の意思表示を促している。	○ ご本人に寄り添うとはどういうことなのか皆で話し合っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう常に話し合っている。一人ひとりの状態や体調に配慮し、本人の気持ちに添うように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	さりげなく身だしなみを直したり、おしゃれの話題で声を掛けたりしている。	○ おしゃれをしての効果を感じられる実践プランを取り入れたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食べられるよういろどりを工夫したり季節料理、郷土料理等を提供している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日等は、好みのものを提供している。酒・タバコは出していない。	○ たまにの楽しみも生きがいにとって必要であることを話し合ってみたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便秘改善の為、毎日話し合っている。オムツ減らしも行えている。各々の方のパターン・サインを把握するよう努めている	○	医学的にも必要な知識を含め、表にして各々のその日その日の支援の仕方を決めていく方法を検討中。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在のところ、個別対応は出来ていない。午前中入浴であるが、入浴時間について検討中。	○	職員サイドの都合で考えていなかったかを皆で話し合っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の希望を聞くようにしている。なるべく夜は良眠できるよう配慮している。	○	昼寝時間の検討・安楽な体位に配慮できるよう話し合っていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所間もない人への対応は難しい点が多い。押し付けることの無いようゆっくり時間をかけて取り組んでいる。	○	各々の利用者の方の生きがいについて考えていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく外気浴に心掛けている。散歩、ひなたぼっこ等。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えますと伝えている。家族より電話があった場合は本人とも話すようにしている。	○	定期便のようなものも検討していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	心待ちにしていると伝えることあり。来所時、時間が充分取れるような雰囲気作り心掛けている。	○	訪問していただいた方からも、色々情報を得られるよう努めたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒に注意しながらも、見守り歩行に心掛けている。車椅子に長時間座ることの無いようにも気をつけている。	○	身体拘束について勉強会もしていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の出て行く気配を見落とさないよう、見守りに注意し、時にはいっしょに散歩をする。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤から夜勤への申し送りも、もれなく行い、まずは安全に配慮している。	○	干渉されたくないという自然の気持ちも理解して、さりげなく見守りするようにしたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者のレベルに応じて、注意を促していく。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットにも職員の共有認識を図り、誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や服薬方法など事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すぐ見える所(電話台の前)に、緊急時の対応表が貼ってあり。年1回訓練を行うようにしている。	○	定期的に学習していくようにしたい。(怪我・出血時・骨折・誤嚥・意識消失時等)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震・水害の災害時対策は行われていない。	○	地域の人々の協力も確認していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	施設での様子を話し、ご家族の助言も引き出すようにしている。	○	自由な暮らしの大切さを職員も頭において話し合う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を皆が掴むようにしている。特に言葉に出せない人の観察を充分行うよう努めている。	○	バイタル備考欄を活用し、簡潔に記録できるようにする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いが起こらないよう、わかり易く整理保管に心掛けている。	○	薬の作用・副作用について皆で学習していく。変化があったときは、詳しく・わかり易く記録していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳・葛湯・イモ類・野菜等も多く摂るようにしている。水分に配慮し、体を動かしていただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ハブラシも柔らかいものにし、歯肉にも気をつけて行っている。義歯装着にも不快感の無いよう気をつけて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コップの大きさをほぼ同じにして、食後必ず一杯は飲んでいただいたか確認している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい手洗いを励行し、通達には必ず目を通し、回覧している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の食品管理にも気をつけている。まな板、ふきん等は漂白し清潔を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターの花を眺めたり、近くの公園まで散歩している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・明るさ・音楽を流したり、工夫している。花などを飾り季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席順なども変えたりして、居心地に配慮している。生花もなるべく置くようにしている。	○	季節感のある飾り付けを工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置を変えたり、引き出し等を使いやすくするよう、仕切りや大きな表示を付けたりしている。	○	写真等で楽しめる壁作りをしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の換気は、早番が1時間ほど必ず行っている。室温には常に気をつけている。	○	便失禁時のにおい対策も継続していく。手足の冷たい人への対応も検討していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を最大限にやっけていけるよう心掛けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症のレベルを把握し、その差を職員が良く理解して、穏やかな生活を目指している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチを利用して、ひなたぼっこをしたり涼んだり一人の空間を楽しんだり等出来るよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

楽しく穏やかに生活できるよう、全員で取り組んでいます。すべての事について職員全員が共有出来るよう書類を工夫またコミュニケーションをしっかりとっていきたいと思います。利用者の健康維持が最も基本と考え、ドクターと連携して、受診が有効に行えるよう話し合っています。